

「香港中文大学サマースクール 英語コース参加報告書」

京都大学経済学部3年 (氏名) 岡水 亮兵

私は、今回の香港中文大学サマースクール(英語コース)の経験を通じて、異文化交流という点で価値観に大きな変化が生じた。留学以前は、異文化交流というのは、共通言語である英語さえ自在に話せれば、容易くできるものと考えていたが、実際は、言語についてだけでなく自国についての理解、さらに交流相手の国などに対する理解が必要であった。ただの日常会話であれば、そこまでは必要ないのかもしれないが、英語で交流、議論などを行う際には、言語能力だけでなく、深い教養も必要だと学んだ。また、アジア中心ではあったが他の国籍の生徒たちと一緒に授業を受けたり、寮生活を営んだりすることで、国際的な理解を深め、自身の進路に対する再考の一助にもなった。

英語の能力に関して、私は中学高校大学と計8年間勉強していたが、リスニングとスピーキングの力についてはさっぱりであった。リスニングはまだしも、スピーキングの機会など、普段から意図して設けていなかったため、プログラム当初はなかなか自分の言いたいことを言葉にできず、もどかしい思いもした。しかし、授業の最初の方は比較的優しい内容、発音や会話独特の受け答えなどから始まり、TAの方や先生の英語も非常に聞き取りやすく、徐々に英語に慣れていく感覚を得られた。毎週金曜日には街に繰り出し、現地の人相手に英語を話す実践の機会があったほか、英語での映画鑑賞など、授業外の活動も充実していた。授業内では比較的座学が多く、少し退屈な時もあったが、終始先生が英語で話しているため、リスニング力の向上につながったと思う。ただ、来年も同様のプログラムを行うのであれば、もう少し授業内でのスピーキングの機会を増やしてほしい。最終のスピーキングテストでは、ペアで約5分のプレゼンテーションと、一人ずつの模擬面接を行った。これはかなり実践的で、自分がこのプログラムでどれほど英語能力の向上を図れたか分かるよい機会だったと思われる。私の場合、やはり三週間で英語をペラペラ話せるというところまではいかなかったが、英語を話すことにも聞くことにもだいぶ抵抗がなくなったように感じた。

次に、週末のアクティビティであるが、香港における有名な観光スポットをいくつも回ることができた。私は観光産業に興味があり、このプログラムにおいても、英語の技能向上のほかに、日本より進んだ観光立国である香港の観光地を実際に訪れて、日本の観光産業に何が欠けているのか学ぶよい機会になると考えていた。週末にツアーとしていくつか巡ったほか、自分たちでも時間があるときに積極的に観光地を訪れて回った。もちろん異国の文化に触れるという意味でも大変貴重な時間となったが、さらに、香港の観光産業の優れた点をいくつも見つけることができた。圧倒的に便利な交通機関、多言語対応のほか、やはり西洋と東洋の文化が融合した魅力的な観光資源が観光客を惹きつけてやまないのだと感じた。

進路への影響については、将来的に海外で活躍したいという気持ちが強まった。現状では、まだまだ海外で通用するような英語力ではないし、現在三年生で、就職活動を控えている身としては、これから多くの時間とって英語を勉強することは難しいように思える。しかし、日本でも英語を話せる留学生との交流や、英語に関するイベントへの参加など、自分にできることはやっていきたいと思う。